

ばあば、だいじょうぶだよ

浜松市立和地小学校 一年 岩瀬 心優

つばさくんのだいすきなばあばが、わすれてしまうびようきになった。いつも、

「つばさはだいじょうぶだよ。」

とやさしくまもってくれたばあばが、べつのひとにおもえて、つばさくんはばあばのへやにいかなかった。

わたしにもわすれてしまうびようきのおばあちゃんがいる。おばあちゃんは、わたしがちいさいときからずっとこのびようきだ。けれど、わたしとよくあそんでくれた。だから、わたしはおばあちゃんがすき。わたしは、おばあちゃんのベッドもすき。おばあちゃんのベッドはともごうか。やねがついているし、ぴんくのおはなのカーテンもついている。のるとふわふわしてきもちがいい。おばあちゃんのへやもすき。あそぶものがいっぱいある。ときどき、おばあちゃんは、じぶんのたからものをみせてくれる。とてもやさしい。

だけど、おばあちゃんは、せんたくきやおふろのボタンをよくおしもちがえる。トイレのでんきもつけっぱなし。みずもだしっぱなし。このまえは、わたしのおやつをたべてしまった。たのしみになっていた。がまんできなくて、おこってしまった。

「かぼっ。」

と、いつてしまった。ばかといつてはだめだから、ばかのはんたいでかば。おばあちゃんにきこえないようにいつたけど、じぶんがおこったことではやなきもちになった。いわなければよかったと、つばさくんとおなじようにこうかいした。でも、わたしはおばあちゃんに、ご

めんね、といえるよ。おばあちゃんがすきだから。

わすれてしまうびようきはなならないと、パパとママがおしえてくれた。わたしは、これからおばあちゃんがつらくならないように、やさしくしようとおもう。そして、これからは、わたしが

「ばあば、だいじょうぶだよ。」

と、いつてあげられるようになりたいな。

書名 ばあばは、だいじょうぶ  
著者名 楠 章子  
発行所 童心社